

保育界

2014
9



発行 日本保育協会

安全などを自分で考える環境づくり — ゲルリッツ・ヴァルドルフ幼稚園（ドイツ） —

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切にする心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが重要です。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『園児の創造性をかきたてる、今までにない園庭をつくりたかった』
『園児が安全を自分自身で考える環境にしたかった』

このような思いから、この園の園庭には、在来の野草が生える急な斜面があったり、大きな石がごろごろしていたり、丸太橋があったりと、自然の素材をふんだんに使って刺激に満ちたいろいろな環境がつくられました。園児は、自分自身の興味関心と身体能力に応じて場所を選んで遊びます。

この園庭で、大きな怪我をした園児は今まで一人もいません。園児は、それぞれの場所で何をすると危ないのかをちゃんと考えて遊びます。時には、新しい遊びを求めて、勇気を出してチャレンジすることもあります。そうしたとき、保育者はむやみに止めずに、注意深く、そしてやさしく見守っています。このように、普段の遊びの中で、園児は自然の中で安全に行動する方法を身に付けています。

■東北地方の保育所の皆さまへ ～東北ESDプログラム チャレンジプロジェクト参加募集中！

環境省では、保育所等で今年度実践されている、自然の大切さや環境にやさしい生活について考えるプログラムを募集しています。締め切りは9月30日（火）。詳しくは、「東北ESDプログラム チャレンジプロジェクト2014」のウェブサイトをご覧ください。